



保健福祉部長 飯田 伸一

# まちの豊かさは、 皆さんの温かな心が 生み出します。

東日本大震災以後、福祉や自助、共助に対する考え方の変化が顕著であったと感じています。けっして他人ごとではない「助け合いの大切さ」を多くの人が考えさせられたのではないのでしょうか。「福祉」や防災で一番大切な「支えあい」は具体的にどのような行動をとるべきか実感しにくい面もありますが、みんなでふくし大作戦での取り組みが「福祉」や「支えあい」ことを考え、行動に移すきっかけになっていただければと思っています。

事業を進めていく中では、市民の皆さん、事業者の皆さんが自ら考えた行動によって市にご提案いただき実現した事業もあり、大変嬉しく思いました。ふれあいサロンは今、各地域で大変活発な活動が広がってきています。一言で地域と言っても抱えている問題、ニーズは多種多様です。地域の皆さん自らが考えて地域コミュニティニケーションをとっていただくことが大変重要で、そこで育まれる住民同士のつながりは孤立、無縁社会を回避することはもちろんですが、災害時の「いざ」というときの自助・共助にも大きな役割を果たします。

今年度は障がい者の皆さんの就労への足掛かりとなるように、「働く幸せチャレンジ事業」を実施します。市役所内での業務で障がいを持つ方に担ってもらおう「ワークシェアリング」を検討しています。業務の内容や量、周りのサポートの仕方などを検討していくこととなります。他自治体でもあまり例のないことであり、業務を担っていた方、そして周りでサポートする職員にとっても、まさ

に「チャレンジ」になると思いますが、障がい者の方の就労意欲を活かして働くことができる環境作りを行ってまいります。福祉は子どもからお年寄りまで、自らのこととして考える必要があります。ふくし大作戦の事業でも、将来を担う子どもたち（小・中学生）による「子ども会議」で、子どもたちの目線から苦小牧の福祉に提言をしてもらいました。「私たちにできる10のこと」として自分の住むまち「苦小牧を知る」ことから始まり、あいさつや感謝の気持ちを持つこと、そしてコミュニケーションの大切さ、公共マナーを守るなどの社会性を踏まえた提言です。子どもにも「ふくし」が浸透してきていることを実感しました。

今年度は障がい者の皆さんの就労への足掛かりとなるように、「働く幸せチャレンジ事業」を実施します。市役所内での業務で障がいを持つ方に担ってもらおう「ワークシェアリング」を検討しています。業務の内容や量、周りのサポートの仕方などを検討していくこととなります。他自治体でもあまり例のないことであり、業務を担っていた方、そして周りでサポートする職員にとっても、まさ

に「チャレンジ」になると思いますが、障がい者の方の就労意欲を活かして働くことができる環境作りを行ってまいります。福祉は子どもからお年寄りまで、自らのこととして考える必要があります。ふくし大作戦の事業でも、将来を担う子どもたち（小・中学生）による「子ども会議」で、子どもたちの目線から苦小牧の福祉に提言をしてもらいました。「私たちにできる10のこと」として自分の住むまち「苦小牧を知る」ことから始まり、あいさつや感謝の気持ちを持つこと、そしてコミュニケーションの大切さ、公共マナーを守るなどの社会性を踏まえた提言です。子どもにも「ふくし」が浸透してきていることを実感しました。

市では平成23年度に苦小牧地域福祉計画を策定しました。子どもからお年寄りまでまちぐるみで、基本的理念として掲げた「支えあい、助けあいながら共に暮らせるまちづくり」を目指し、今年度、皆さんとともに育んでまいりました「ふくしの心」を高め、「ふくしの絆」を広げ、住みよいまちづくりを進めていきたいと考えています。

